Life&Work

# わたしの天職

# 使い込まれたハサミに切れ味を〝もどす〟喜び

山下隆央さん（63）
八代教会

「十年間、眠っていたシザー（ハサミ）を研いでほしい」。常連客の美容師から依頼を受けたハサミ研ぎ師の山下隆央さんは、軽ワゴンの車内に設えた作業場で、切れ味が鈍くなった刃を研磨していく。

十分ほどの作業で、ティッシュペーパーを簡単に断ち切るほどの鋭さが復活した。山下さんが自らを〝もどし屋〟と名乗る理由はそこにある。

今でこそハサミ研ぎを生業とするが、かつては美容師だった。二十歳で東京の美容学校を卒業し、十年ほど都内の美容室で働いた。その後、親戚に誘われて熊本県へ移り、美容室を開業。十八年間切り盛りしたが、売り上げの低迷により店をたたんだ。それから二度の転職を経て、ハサミ研ぎ師になると決めたのは五十二歳のときだ。

当初は、取引先の理美容師やトリマーの要望に応えられず、よくクレームを受けた。満足してもらえるよう、修練を重ねる中で、「ただ鋭く研ぐのではなく、使う前の切れ味にすることが大切だと感じ、高みを目指しました」という。

研いだ後は、客のハサミの持ち方や切るときの手の動きを対面で確認し、持ち主が使いやすいように調整するのも、元美容師の山下さんならでは。加えて、納得のいく仕上がりを最優先にするために、一日二十本ほどの作業に限定している。そうした丁寧かつ顧客に寄り添ったサービスが奏功し、口コミや紹介によって注文が増えた。そして昨年は、クレームがゼロに。「古びたハサミが蘇ったことに驚くお客さんを見ると、自分がうれしくなります」。

客に喜ばれる仕事を続けることが、求めずとも利益につながると、山下さんは信じてきた。それは、立正佼成会で学んだ法華経の信解品にある「求めざるに自ら得たり」に通じる考え方だ。

「本来の切れ味にもどせば、まだ役に立つハサミがあります。また使ってもらえるようにと願い、一本一本にいのちを吹き込むつもりで研いでいます」

はさみ研ぎ輝
メール kagayakii@softbank.ne.jp
電話 090-1361-7501
（依頼は熊本市を中心に八代市周辺まで）

＊立正佼成会経営者サンガネットワーク「六花の会」
https://rikkanokai.jp/community/
５月１日から上記 HP でもこの記事がご覧になれます。



5_P06_Life&Work.indd　全ページ　2023/03/15　12:42